安藤歴史　秋第九回 １２・１１

Copyright : Takumin

2007年12月4日

14:50

弥生墳丘墓から前方後円墳へ

◎弥生墳丘墓から前方後円墳へ

・弥生時代末期に、近畿・北部九州で突如として青銅器祭祀が打ち切られる。

→前方後円墳型墳丘墓祭祀のまとまりに参画

大和を中心とした祭祀の再編が行われた。

・東海地方～関東では、四隅突出型墳丘墓、方形墳丘墓

前方後円墳の成立

◎初期前方後円墳の特徴

・大和盆地東南部に全長２５０メートル以上の大型墳が集中。

前方後円墳祭祀を共有する社会の中心。

→大和盆地の地域社会のリーダー(首長)が、前方後円墳祭祀を共有する社会の代表者となる。

・前方後円墳の定型化

　墳丘の規格化が進む。

　長大な木簡とそれを囲む竪穴式石槨。

　円筒埴輪の成立。

→大和を中心に地域社会同士の関係性が深まる。

　三角縁神獣鏡を中心とする青銅鏡の副葬。

　他に鉄製時・工具、玉類が多量に副葬される。

→地域社会における首長の中心性と結びつく。

◎前期前半（４世紀前葉まで）の前方後円墳

・関東地方から北部九州に分布

　ただし、分布に偏りがある。前方後方墳も多い。大和盆地を除くと、前方後円墳の数は少ない。

→祭祀を共有する地域社会がまだ少ない。

・大和盆地東南部に２００メートル以上の前方後円墳が集中。他地域には１００メートルを超える前方後円墳は少ない。

→大和盆地が祭祀を共有する社会の中心。

。４世紀になると新たな宝器・祭器が創出される。

　倭国製大型青銅鏡・銅鏃

　碧玉製腕装飾器・核種碧玉製品など。

→大和盆地の中心性を維持しようとするもの。

◎前期後半（４世紀中～後葉）の前方後円墳

・東北中部～九州南部に前方後円墳が急増。

　全長１００メートル前後のものが各地に形成される。

→祭祀を共有する地域社会の数が増加。

・大和盆地の大型前方後円墳の分布が分散的になる。

　最大の古墳が全長２００メートル前後になる。

　東北～中国地方に２００メートル近い古墳が形成される。

→大和盆地の中心性が不明瞭になる。

　各地の市域社会（群）の同質性を示すもの。

・首長の権威の象徴となる宝器・祭器の増加。

　碧玉製腕飾類・滑石製品の発達。

→前方後円墳祭祀を共有する

・前期の前方後円墳が分布する範囲

　あくまでも地域社会の集合体。

　基本的に地域社会観に絶対的な上下関係はない。

　大和の中心性も安定的なものではない。

＊なぜ、前期後半に前方後円墳が急増するのか。

　東アジア全体の情勢と関係する可能性が高い。

　３１３年　高句麗が楽浪郡を滅亡させる。

　３１６年　西晋の滅亡　→五胡十六国の時代へ。

　４世紀前半　百済・新羅の成立。

→倭国のまとまりを維持することが重要になる